

短刀 銘吉光 (名物信濃藤四郎)
当館蔵

徳川十六将図
(酒井忠次部分) 当館蔵

8月22日(土)~
9月28日(月)

琵琶
銘 武蔵野
狂内神社蔵

朱塗軍糸威一枚胴足兜小鼻足付
当館蔵

出羽庄内藩酒井家の遺宝

鶴岡市合併・市制施行10周年記念事業

致道博物館開館65周年記念

開館時間 午前9時~午後5時 (入館は午後4時30分まで)
入館料 一般700円/学生380円/小中生280円
主催 公益財団法人致道博物館
共催 山形県・(公財)山形県生涯学習文化財団
鶴岡市教育委員会
後援 鶴岡市・日本美術刀剣保存協会庄内支部

公益財団法人
致道博物館

〒997-0036 山形県鶴岡市家中新町 10-18
TEL 0235(22)1199 FAX 0235(22)3531

出羽

庄内藩

酒井家の

遺宝

徳川家康が領地拡大を目指して駆け巡っていた
戦国時代、徳川家を支える武将のひとりに酒井忠次
(庄内酒井家初代)がいました。

忠次は家康の叔父という血縁関係にあり、また、
多くの戦で活躍したことから、のちには徳川四天王
筆頭とも称されます。

三河国より興った酒井家でしたが、2代家次以降
転封を重ね、元和8年(1622)には、3代忠勝が
出羽国庄内13万8千石の地へ入部します。その後、
石高を14万石とし、幕末に至るまで約250年の間、
酒井家は庄内藩主として領国の維持に努めました。

戦乱の世を経て訪れた江戸時代の「平和」、この
時代に花開いた文化は、多くの名品を生み出します。
全国の諸大名と同じように、酒井家もまたそれら名品
を入手し、家宝として大切に守ってきました。

本展では、酒井忠次所用の甲冑「朱塗黒系威二
枚胴具足」、3代忠勝の時代に伝来した短刀 銘吉光
(名物信濃藤四郎)など、「酒井家の遺宝」の数々
を紹介します。



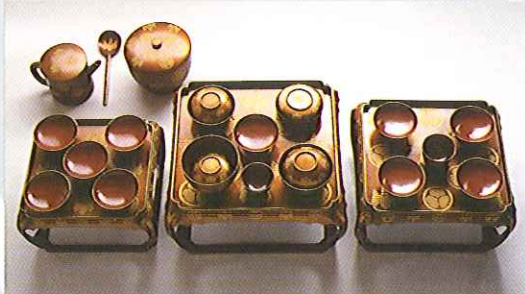
朱塗色々威二枚胴具足 (酒井家次所用) 当館蔵



国宝 太刀 銘真光付糸巻太刀拵 当館蔵



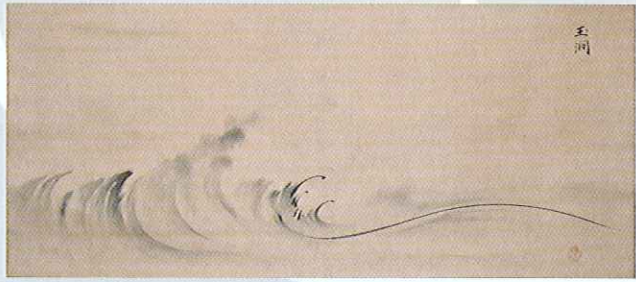
大井戸茶碗 銘酒井 本間美術館蔵



金梨子地桐葉紋散駄盤 当館蔵



金銀象嵌鐙 銘大泉 詰然居光中 (花押) 個人蔵



伝狩野元信筆 波図 慈光明院蔵



酒井忠次 和歌懐紙「神無月」 当館蔵



交通案内 ■JR鶴岡駅よりバス10分「致道博物館前」下車
■山形自動車道鶴岡I.C.より 車で5分
■庄内空港より 車で20分

9月12日(土) 14時から
学芸員による
ギャラリートーク

公益財団法人
致道博物館

〒997-0036 山形県鶴岡市家中新町10-18
TEL 0235-22-1199 FAX 0235-22-3531
<http://www.chido.jp/> E-mail chido@axel.ocn.ne.jp